



案内していただいた八尾市まちなみセンターの近藤所長

高師浜支線の開通により、大正デモクラシーの時流に乗った「高師浜に浮き出た桃源郷・キャラバシ園」はアメリカ帰りの感覚を生かした洋風住宅を建設。今は数が減って大正14年(1925)に建設された赤城家住宅は国登録有形文化財となっています。また伽羅橋駅前には前述の「浜の寺一大雄寺」を石碑で紹介しています。夕方は公園内でのイベント、京都芸大による黄昏コンサート”ローズ・ド・メイ”に参加。第2回は7月に予定した大和三輪山の「磐座」を訪ねる」企画は台風12号を前に中止。

続く11月、JR久宝寺駅で集合。室町時代後期から顕証寺を中核とし、土居や堀、碁盤の目状の道路網などの町割りが残る久宝寺の寺内町へ。これら寺内町の歴史的遺産の紹介には地域活動の拠点、八尾市まちなみセンターの方々には非常にお世話になりました。町内の「あん巻の有名な和菓子屋帯喜太」にも寄り、中世の街並みや農地が残る風景を後にし、久宝寺緑地で毎月第4日曜日に開かれるマルシェに参加。また公園の賑わいづくりに誘致したコンビニ運営を見学。終了後は平野郷のがんこ平野屋敷で懇親会を持ちました。(繁村 誠人)

通常総会

平成30年6月1日(金)午後2時30分より、ドーンセンター(大阪府男女共同参画・青少年センター)において平成30年度通常総会を開催しました。正会員65名の内過半数の39名の出席となり、本総会は成立し、吉田理事長を議長として、提案された平成29年度事業報告および決算報告書、平成30年度事業計画案及び収支・支出予算案ならびに総会議決事項の委任は原案どおり可決されました。総会終了後、生態展示の手法による動物園設計の第一人者である若生謙二さんから「造園からジャンルを切り拓く一歴史をつくらう」のテーマで記念講演会をもち、これまでの動物園設計の経験を踏まえ、造園の仕事を生み出す行動力とこれからの広がりについてお話がありました。

編集後記

2025年大阪万博が決まりました。街づくりにもっともっと参加、提案していきたいものです。新しく当NPOの紹介リーフレットを刷新しました。庭園文化塾の実績や二本サロンなど活動を広げ、みどりの良き理解者とともに皆さんにもっと伝えていけるようにしていきたいと思えます。(事務局)

◎ ご入会の案内

当センターは都市緑化への協力を努めながら、造園、園芸技術の研究、研修会の開催、自然と環境問題の調査、国際交流の推進などをテーマに活動しています。関心をお持ちの方、主旨にご賛同の方はぜひご参加下さい。

| | 入会金 | 年会費 |
|-------|---------|---------|
| 個人正会員 | 10,000円 | 10,000円 |
| 団体正会員 | 50,000円 | 30,000円 |
| 賛助会員 | 30,000円 | 20,000円 |
| 友の会 | 免除 | 3,000円 |

◎ ご寄付のお願い

当センターの活動をさらに活性化させるため、広く皆さまのご支援を賜りたく、ご寄付をお願い申し上げます。尚サロンでは持ち寄りで運営しておりますので、更にご協力をお願いします。

◎ ご寄付

10,000円 若生謙二(敬称略)

◎ 新入会員のご紹介 (平成31年4月末現在)

個人正会員 武田雅子 原忠彦
 団体正会員 (株)K'eis (株)空間創研
 友の会 淀井ナオミ 堤公平 鮫島たま代
 横村吉高 (敬称略)

NPO法人 国際造園研究センター

〒540-0021 大阪市中央区大手通1-4-2 ワイズ谷町ビル202号 TEL:06-6944-2040 FAX:06-6948-5282

ホームページ <http://www.klrs.org/> ※メールアドレスが変わります。詳しくはホームページまで。 国際造園 で検索!

NPO法人 国際造園研究センター会報

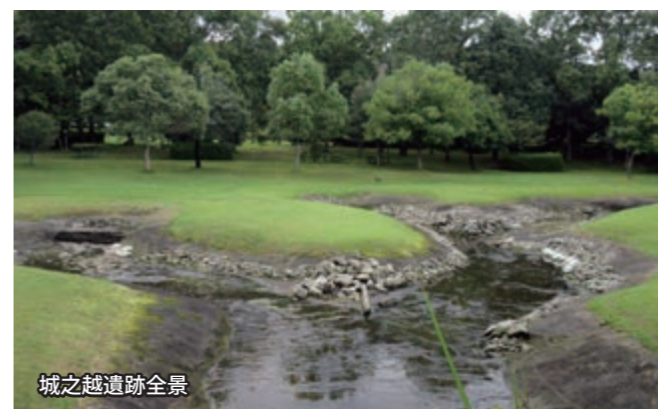
No.16
2019
6月発行

日本庭園の源流の旅へ

～奈良県・三重県の史跡庭園～

日本庭園と聞いて我々が思い浮かべるのは、一般的に京都の宇治平等院などの浄土式庭園、作庭記に記されるような寝殿造りの庭園だろう。また枯山水庭園や露地庭、雄大な大名庭園を頭に思い浮かべる人もいるかもしれない。これらの庭園は、当時の思想や時代、作庭技術の積み重ねで形作られるが、巡っていると、「日本庭園の源流はどのようなものだろうか?」と疑問が生じてくる。平安京以前に国の中心地であった大和国を含め畿内と呼ばれる地には、その疑問解決の一助になる史跡が存在する。今回その一部を紹介していきたい。

まずは三重県伊賀市比土にある「国名勝及び史跡 城之越遺跡」である。大和朝廷成立以前の4世紀後半(古墳時代前期)に作られた水祭祀の遺跡で、1991年に発掘調査され、現在は護岸を一部現物展示した史跡整備が行われ一般に公開されている。



城之越遺跡全景

近接する三か所の井泉から水流を一か所に集める曲線の貼石の大溝があり、その途中に上部が平坦な岬状の突出部や水面に近づくための階段状施設を持つ。

突出部は石が景石のように意図的に立てられ、それぞれの井泉は明日香酒船石遺跡の亀形石造物や後述する飛鳥京跡苑池の石槽と同じく、人ひとりが入れる程度の水を貯める構造になっている。古代の水祭祀遺構として、どのよ

うな用途があったのか興味深い。

庭園ではないが、庭園以前の人と水のかかわりを想像する史跡として、また、のちの日本庭園の原点として、多くの研究者がその類似点を指摘する重要な史跡である。



北池階段護岸と州浜

次に紹介するのは、奈良県明日香村岡にある「国史跡及び名勝 飛鳥京跡苑池」である。1916年(大正5)に2つの石造物(出水の酒船石)の出土により存在が知られ、1999年(平成11)から現在まで学術調査が続けられている。

「日本」の国号が成立した飛鳥時代に作庭され、朝鮮半島方池の影響を受けた五角形で急勾配の石積み護岸とマツを植栽した日本らしい曲線の中島を持つ南池、堤を挟んで位置する四角形の北池を中心とする約2.7haの庭園である。舒明天皇から持統天皇まで、6代の天皇が政務をとった飛鳥宮跡に隣接し、日本書記に記載される「白錦後苑」との関係性も指摘される。

2018年(平成30)の調査では、庭園史上最古の階段護岸と州浜構造が北池で確認され、現地見学会では多くの見学者でにぎわった。

この庭園を特徴は、池形状もさることながら、南池で確認された前述の2石を含む計4石の石造物であろう。水が庭園の南端部の水路から巧みに造形された3つの石造物を通じて池に噴水のように流れ込む構造だが、その完全な配置や用途は現在も不明である。(次ページに続く)

また、これら石造物の傍らには人が入れる大きさの石槽が配置されており、天皇家の水祭祀に関係すると想像されるが、こちらもその用途は不明である。

飛鳥京跡苑池は、半島の技術と古代日本の思想、現代の日本庭園につながる鑑賞と水祭祀にかかわる宗教施設といった異なる思想目的を併存するこの時代ならではの庭園と言える。

現在は遺構保護のため史跡は埋設されているが、奈良県では今後、保存活用計画を策定し、遺構の復原展示と一般公開を予定している。

最後に紹介するのは、奈良県奈良市にある「国特別史跡・特別名勝 平城京左京三条二坊宮跡庭園」である。奈良時代中期(750年頃)に作庭された平城京の迎賓館的性格を持つ庭園であり、1975年(昭和50)より発掘が開始され、現在は庭園全体が現物展示にて一般公開されている。

池を見渡せる建築物と池が一体となっており、周囲にはマツやウメが植栽され、池底には水草を植栽する沈床花壇も設置されていると共に、屈曲した形状の池護岸には1m近い景石が配置され、池の水は木樋により導水されている。現在の日本庭園に近い鑑賞目的の庭園である。



平城三条二坊庭園 池底と護岸景石

置されていると共に、屈曲した形状の池護岸には1m近い景石が配置され、池の水は木樋により導水されている。現在の日本庭園に近い鑑賞目的の庭園である。

以上、古墳時代から奈良時代までの庭園に関する史跡をかいつまんで紹介した。

京都の庭園は四季折々の美しい姿を私たちにを見せており、何度でも足を運びたい魅力を持つが、時にはこれら日本庭園の源流となる奈良や三重の史跡を回り、思いをはせるのも面白いのではないだろうか。

(奥田 篤)

みどりを取り巻く町の宝探し！ 「関西みどり探訪」始まる。

以前から緑化部会の中でも公園など緑の拠点だけでなくその地域の歴史や風土、また集いの拠点(グルメや物産を含め)といったものをみんなで探訪する機会を持ちたいと思っていました。

平成30年度第1回関西みどり探訪は5月浜寺公園の「ばら庭園」

と高師浜周辺を訪ねて、地元主宰の大イベント浜寺公園のローズカーニバルに合わせました。国の登録有形文化財となっており、東京駅でも著名な辰野金吾の設計の南海浜寺公園駅駅舎前で集合。吉野の日雄寺の山寺に対して、南朝の拠点のひとつ大雄寺が「浜寺」と呼ばれたことに由来した地名。浜寺公園に入ると園内はカーニバルの真っ最中、人込みをかき分けの探訪。公園内には鉄幹との出会いの寿命館跡に立つ与謝野晶子歌碑や、公園発祥となった大久保利通の惜松碑。ばら庭園では抹茶をいただき、当センター理事辻氏は通常「農薬漬け」のバラ管理に対して現地での農薬を使わないIPM管理

の手法を紹介。続く高師浜域には日露戦争のロシア兵の俘虜収容所が設置され、その友好の曙の記念碑が公園の南の一角に設置されています。当時物珍しさも手伝い多くの見物客により南海鉄道浜寺駅の乗客が日頃の7倍に達したといわれています。そのキャンプ跡地から南海電車高師浜・伽羅橋駅まで足を延ばします。(次ページに続く)



薔薇の無農薬 IPM 管理を語る辻さん

2025年の大阪・関西万博に関する勉強会報告

開催が決定した2025年大阪・関西万博について、決定前の平成30年7月26日(木)に、ドーンセンター4階の大会議室1において、造園・ランドスケープ関係者による勉強会を開催しました。当日は、行政関係者やコンサルタント、施工関係者、公園の指定管理団体など、また年齢層も重鎮から若手まで幅広い参加者が集まりました。

最初に、2025年万博の構想と誘致活動の状況について、大阪府政策企画部 万博誘致推進室課長兼2025日本万国博覧会誘致委員会事務局大阪本部事務局課長の森栄子氏から説明していただき、続いて糸谷正俊副理事長から「万博における造園界のかかわり方について考える」と題して講演していただきました。時代の移り変わりによって万国博覧会の性格が変化してきた経緯と1970年の日本万国博覧会、1990年の国際花と緑の博覧会について、決定から閉会後の跡地利用までお話ししていただきました。

最後に会場の参加者を交えて意見交換会を行いました。会場からは今回の博覧会にも造園関係者が重要な役割を果たすべきだという意見が出て、引き続き少人数の勉強会

を継続していくことが決まりました。参加者は33名でした。

継続して行った少人数の勉強会の成果を「2025大阪・関西万博への提案」として発表することになり、平成30年11月9日(金)、大阪市歴史博物館講堂において報告会を開催しました。提案したテーマは、「ランドスケープから“2025大阪・関西万博”への提案・・・いのち輝く未来社会の実験島」です。



会場予定地(夢洲)

当日、コンセプトについては堤公平氏(大阪府都市整備部池田土木事務所都市みどり課主査)、会場計画については西辻俊明氏((一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部支部長)、会場整備については笠松滋久氏((株)東邦レオホールディングス取締役部長、(一社)街路樹診断協会 副会長)が行いました。続いてパネルディスカッションを行いました。パネラーは、宮崎政雄氏(大阪府都市整備部鳳土木事務所都市みどり課主査)、西辻俊明氏(前掲)、笠松滋久氏(前掲)、コメンテーターは今西純一氏(大阪府立大学生命環境科学研究科緑地環境科学分野准教授)と松田麻里氏((株)総合計画機構環境計画室室長)にお越し、糸谷正俊副理事長の

コーディネートにより議論と今後の対応について意見交換を行いました。当日の参加者は61名でした。(大槻 憲章)

